



114  
A 4491



泰西農業勸獎法二篇

天  
限  
正  
十  
一  
年  
四  
月  
侯  
爵  
郵  
寄  
瑞

大藏省雇澳國男矢伊勃兒篤譯講  
大藏省八等出仕古賀保高筆記

日耳曼國貴族年貢償還緒論

歐洲各國ノ人民財產所有ノ權往昔ハ動産ト不動  
産トニ由テ大ニ差異アリ動産所有ノ權ハ夙ニ人  
民皆之ヲ有セシト雖モ不動産所有ノ權ニ至リハ  
然ラズ此權ノ一般ニ擴充セシハ實ニ近代ニ下リ

大藏省

今本編日耳曼國貴族年貢償還ノ方法ヲ説明スル  
ニ先夕子茲ニ其權利ノ事ヲ述ニ近ク之ヲ日耳曼  
國ニ徵スルニ古甲利大帝封建政躰ヲ起セシ頃ハ  
農民自由ノ權ヲ有スル者少ク大抵隸農ニシテ  
各主人即貴族有リ其情態恰モ奴隸ニ均シ此原由種  
々アリト雖モ多クハ戰爭ニテ囚虜トナリシ者或  
ハ自由ノ權ヲ有セサル者ノ子弟或ハ負債ヲ償還  
シ得サルモノ等ニシテ渾テ主人ノ土地ニ屬セリ  
然レモ羅馬賣奴ノ如ク苛酷ノ取扱ニ非ス初メハ  
男女俱ニ其主家ニ在リテ下等ノ使役ヲ受ケ或ハ

主人ノ田圃ニ耕作スルヲ以テ其義務トセシモノ  
ナリ世代遷移スルニ及テ農民ハ主人ノ領地ニ住  
居シ常ニ農事ヲ營ムヲ第一ノ義務ト定メシニ漸  
々又之ヲ變革シ卒ニ主人ノ田圃ヲ預リ產物幾分  
ノ年貢ヲ納メ或ハ主人ノ田圃ニ幾分ノ力作ヲ盡  
スヘキヲトナレリ  
農民死亡及ヒ代替ノ氏往古ハ其所有ノ動產不動  
產即地悉ク主人ノ有ニ歸セシニ後年之ヲ改定シ  
テ動產ノ内一品物或ハ動產價直ノ幾分ヲ納ムル  
モノトシ之ヲ「モルツアー」ト云ヒ不動產ヨ

ソハ其價直ノ幾分ヲ納ムルモノトス之ヲウデニ  
ウロト云フ又夫役ハ主人ノ田圃ヲ耕作スルト主  
家ニ使役スルトノ二様アリト虽モ多クハ耕作ス  
ルトトセリ之ヲゴロンデント云フ

封建政治最モ盛ナル頃ハ大小<sup>上等</sup>等ノ貴族政權ヲ  
專ニシ壓制ヲ擅ニスルヲ以テ自由ノ權ヲ有セシ  
農民ト虽モ亦資力微弱ナル者ハ自然威逼脅從セ  
ラレテ往々隸農ノ狀況ニ陥リ後來終ニ自主ノ民  
タルト否ラサルモノト其區別無キニ至レリ之ニ  
加フルニ農民ハ各自一己ニ負荷セシ義務ノ外又

公共ノ義務ヲ負荷セリ是ハ税法上ヨリ起ルモノ  
ニシテ紳士官吏兵隊等旅行ノ時ハ其夫役ヲ務メ  
或ハ食物ヲ供シ又軍役ヲ務ムルトニ定マレリ若  
シ其軍役ヲ務ムル能ハサルモノハ城壘及ヒ道路  
ヲ修築シ或ハ陣營ヲ看守スル等ノ役ニ充ツルモ  
トトセリ  
農民ヨリ貴族ハ納ムル年貢ハ大率産物ノ十分一  
ニシテ穀物ヨリ納ムルヲ大十分一ト云ヒ菜蔬菓  
物ヨリ納ムルヲ小十分一或ハ小作物十分一ト云  
ヒ家畜ヨリ納ムルヲ肉十分一或ハ血十分一ト云

フ渾テ此年貢ハ品物ニテ之ヲ納メ金錢ヲ以テス  
ルテアル無シ然ル所以ハ貿易通商ノ道未タ開ケ  
スシテ公業ノ法未タ行ハレズ財貨融通ノ便未タ  
起ラサルハ故ニ品物ヲ以テスルハ之ヲ納ムル者  
ハ勿論之ヲ受ル者モ亦便利ナレハナリ  
第十七世期立君獨裁ノ政法盛ナルハ各國從來ノ  
兵制ハ一變シ一般常備兵ヲ起セシニ由リ大小ノ  
貴族渾テ兵權ヲ失ヒ隨テ政權亦衰テハニ際シ各  
居城ヲ離レ其國ノ首府ニ轉移シ或ハ國君ニ仕フ  
ルモノアリト雖モ多クハ優遊日ヲ度リ往々奢靡

風ヲ為セリ而シテ其濫費ハ領地ノ代官ヲ抑壓シ  
テ擅ニ之ヲ部民ヨリ収歛セシメタリ  
第十八世期ニ至リ社會上既ニ文華ノ萌芽ヲ發シ  
シ人々進テ國政ト國政法トヲ講明シ人身ノ尊靈  
ト民權ノ貴重ナルトヲ辨識シテ其變動農民ノ上  
ニ影響シ政府初メテ虛使ノ禁令ヲ發セシニ由リ  
農民纔ニ一部ノ羈絆ヲ脱スルヲ得タリ普魯士國  
ハ千七百二年澳地利國ハ千七百八十二年巴華釐  
亞瓦敦堡其他日耳曼ノ各國ハ十九世期ノ初メニ  
至リ此令ヲ發セリ

第十九世期ノ初メ即チ十八百六年日耳曼國ニ於  
テ帝國ノ体制ヲ廢止セシ後ハ大小ノ貴族全ク其  
政權ヲ失ヒシト虽モ土地所有ノ權ハ尚ホ存セシ  
ヲ以テ農民モ亦旧ニ仍テ土地ノ義務ヲ解クヲ得  
ズ然ルニ漸々經濟ノ學進捗セシニ隨ヒ世道益興  
隆シ民權愈擴張シ農民封建ノ制度ヲ認メテ抑壓  
ノ器具トナシ日ニ之ヲ厭惡スル深ク往々其義務  
ヲ解キ不羈獨立ノ民々ヲシト要求セシヲ以テ各  
國政府ハ夙ニ此通弊ヲ觀察シテ之ヲ匡正スルニ  
役事セシト虽モ未ダ十分ニ舉行セサリシカ遂ニ

千八百四十八年國政大變革ノキニ於テ初メテ貴  
族ノ年貢償還法ヲ設ケ農民ヲシテ負荷ノ義務ヲ  
解キ其土地ヲ有セシラルニ至ル佛國ノ如キハ千  
七百八十九年顛覆ノ際ニ乘シ農民ノ負荷セシ土  
地ノ義務ハ悉ク其償金ヲ要セスシテ之ヲ解放セ  
リ蓋シ年貢償還ノ証券ヲ製スル丁是レヨリ初メ  
レリ  
夫レ年貢償還ノ事タル固ヨリ國家ノ一難事ニシ  
テ大ニ財政上ニ關係スル要務ナリ故ニ各國政府  
專ラ旧ト納租ノ義務アリシ者即チ農民以下之ニ準スト徵租ノ

権利アリシ者 即チ貴族以下之ニ準ストノ間ニ在テ之ヲ幹旋セ

其方法先ツ法律ヲ以テ毎歲納メシ所ノ年貢ヲ

金額ニ積リ其元金 例之八年々納ムル所ノ年貢ヲ積リテ十田十レハ普通ノ

利子ニテ之ヲ生スルニ 足ル母金高ヲ元金トスニ 算定シテ之ヲ償還セシ

ムルモノトス或ル國ニ於テハ此金高ノ幾分ヲ政

府ニ引受ケ餘ハ悉ク裁替アリシモノヨリ償還セ

シハ然レモ農民ハ大抵其元金ヲ有セサルカ為

政府保信社ヲ設立シ 貸付銀行ノ種類 該社ヨリ証券或ハ

現金ヲ以テ直ニ権利アリシ者ハ其元金高ヲ償完

シ裁替アリシ者ヨリハ其金額ヲ年賦ニテ該社ハ

納付セシムルモノナリ此保信社ハ從來設立ノ者

ヲ用フルアリ或ハ特ニ之ヲ設立スルアリ而シテ

私ニ設立セシモノト虽モ政府其事務ニ干預シテ

直ニ之ヲ保証セリ又権利アリシモノ共同此社會

ヲ起スアリ是ハ政府其事務ヲ管理スト雖モ保證

ヲ為ス下ナシ

旧ト裁替アリシ者ニ於テハ権利アリシ者或ハ保

信社ハ年貢元金ヲ一時ニ償完スヘキモノト虽モ

其金巨額ナルカ為メ大抵之ヲ有セシモノ無キヲ

以テ年賦償還ノ法 此年限下ニ詳カナリ 設ケタリ而シテ

其年賦高ハ從前納ケル所ノ年貢高ニ均シク或ハ其幾分ニシテ年賦返納ノ間ハ各國共法律ヲ以テ從前貴族ニテ年貢ヲ徵收セシ同様ノ權利ヲ各保信社ハ與ヘリ一層之ヲ嚴肅ニスル國ニ於テハ國稅ヨリ先ニ徵收スルヲ許可セリ

保信社ノ名稱ハ各國各異ナリ澳地利國ニテハ土地羈絆解放積金社ト云ヒ普魯士國ニテハ年貢銀行ト云ヒ巴華釐亞瓦敦堡各不爾厄ノ各國ニテハ解絆金庫ト云ヒ撒遜安合ノ二州ニテハ土地年貢銀行ト云フ此他日身曼各國ニ於テハ大抵通常ノ

保信社ヲ用ヒテ年貢償還ノ事務ヲ執行セリ即チ亞諾威爾タルヘツセン撒遜梅凝認撒遜額達等ノ各州ニテハ國立保信社ヲ用ヒ保林師州ニテハ典當所ヲ用ヒ巴丁國ハ十分一年貢償還金庫ヲ用フル類是ナリ而シテ此保信社ハ普通ノ証券ト記名ノ証券トヲ製シテ之ヲ發行スルノ權利ヲ與ヘタリ此証券ハ他ノ証券ノ如ク相場ヲ以テ一般賣買スルヲ得

此証券ノ名稱モ亦各所ニ於テ各異ナレリ澳地利國ニテハ土地羈絆解放証券ト云ヒ普魯士國ハ年



貢証券ト云ヒ巴華釐亞國ハ土地年貢償還証券ト  
云ヒ瓦敷堡國ハ地頭年貢十分一年貢償還証券ト  
云ヒ撒遜其他ノ各州ニ於テハ土地年貢証券ト云  
フ又通常ノ保信社ヲ用ヒシ所ニ於テハ其証券ヲ  
保信金庫証券ト云ヘリ

保信金庫証券ハ特ニ年貢償還ノ為メノミニ製セ  
シモノニアラス從來該金庫ニ於テ發行セシ所ノ  
モノヲ用テ年貢償還ニ充用セシナリ是故ニ其抵  
當ナルモノハ當ニ農民ヨリ還納スル年賦金ノミ  
ニ非ズ併セテ金庫ノ全産ヲ以テ之ニ當テ政府其

保証ヲナセリ此金庫ノ本旨ハ農工商三業勸奨ノ  
為メ低利ニテ其元金ヲ貸付スルニ在リテ政府ノ  
貯蓄金瓶兒ノ預ケ金瓶兒ノ財產古ハ其親戚ニテ管  
理セシカ近世ニ至リ政府之ヲ  
管理スルトナレシ此故ニ裁判所ニ於テ其後見  
人ヲ立テ之ヲ監守セシメ動産ノ内無益ノモノハ  
之ヲ競賣シテ得ル所ノ金額ヲ確實ナル抵當ニテ  
貸付シ其利ヲ收ルナリ  
郷黨ノ積金義濟館シテ施濟教育信教ノ為メ出ス所  
ノ義助金或ハ其設立所ノ積金裁判所ノ預ケ金其  
ヲ指スモノナリ  
他ノ金錢ヲ預リ而シテ其金額ノ証券ヲ付與セリ  
此証券賣買流用ノ便アリト虽モ多クハ各自ノ望  
ニ任セ何レノ時ニテモ現金ト交換シ得ルモノニ

シテ固ヨリ年貢償還ノ証券トハ大ニ差異アリ年  
貢償還ノ証券ハ前述ノ所以ナルヲ以テ實ニ至要  
ノモノナレハ財主ニ於テ他ノ証券ヨリ十分ニ之  
ヲ信用スヘキハ理アリ仮令負債主農氏年賦金ヲ  
納付スル能ハスシテ公裁ノ上分散スルトアリト  
雖氏債主先取リノ特権アルヲ以テ必ス損失ニ罹  
ルノ恐レナシトス故ニ財主ニテ利子ノ生スルモ  
ノヲ購求セント欲セハ蓋シ此証券ニ如クモノナ  
カルヘシ但シ年貢償還ノ法各國種々ニシテ枚舉  
スルニ勝ヘスト雖氏之ヲ要スルニ皆大同小異ナ  
ル

レハ此篇証券ヲ多ク發行シテ其方法ノ最モ殊異  
ナル二三ノ國法ヲ説明シ看者ヲシテ反求セシムル  
モノナリ

### 澳地利國土地羈絆解放証券ノ事

澳地利國ニ於テハ千八百四十八年前ハ政府土地  
羈絆解放ノ事ヲ舉行スルト殆ト稀ナリシカ同年  
以來數此法制ヲ施行セリ即チ千八百四十八年九  
月七日ノ法千八百四十九年三月四日同八月十五  
日ノ法千八百五十年九月廿五日ノ法千八百五十  
一年三月十二日同四月十一日ノ法千八百五十三

年三月二日同十月廿三日ノ法千八百五十四年一月十六日同六月廿一日ノ法千八百五十六年一月一日ノ法千八百五十七年六月七日ノ法等ナリ又談事務主管ノ省ニ於テ此法ニ就キ布達スルニ千八百五十五年七月三十一日千八百五十六年五月十九日千八百五十七年十月三十一日ノ三回ニ及ハリ其法タル各州毎ニ農民ニテ負荷セシ土地ノ義務ヲ解放センカ為メ一或ハ二三ノ土地羈絆解放積金社ヲ起シ以テ其証券ヲ製シ年五分ノ利子ヲ付シテ權利ヲ有セシモノハ償完シ而シテ其証

券支消元金ハ各州政府ニテ全額或ハ幾分ヲ出シ或ハ義務アル者ノミニテ納ムルモノアリ先ツ法律上ニ於テ適當ノ償金ヲ以テ解ク可キ義務是ハ夫役ヲ務メ及ヒ產物金錢ヲ貢ク等土地ニ屬セシ義務ヲ云フト其償金ヲ要セスシテ解クヘキ羈絆是ハ驅役保護裁判ヲ受ル等人身ニ屬セシ羈絆ヲ云フト分ツ償金ヲ以テ解クヘキ義務ニ積アリ第一ハ各州政府ヨリ其全額或ハ幾分ヲ償還スルキモノニシテ此金高ハ税帳ノ值價ニ照準シテ之ヲ積ルモノトシ第二ハ義務アル者ノミニテ償

還スヘキモノニシテ此金高ハ通常土地ノ時價ニ  
隨テ之ヲ積ルモノトス是ハエロピートイヌ是ハ  
永借地即チ羅馬法ニシテノ為メ古來ヨリ年々定  
マリタル高ヲ以テ金銀產物ヲ納ケル等永久ノ義  
務ヲ云フ或ハ條約上是ハ財貨永借ノ為メ吾所有  
地ノ產物ヲ幾分々納ケル條約ヲ云フ或ハ義  
濟館ノ為メ尽ス所ノ義務ヲシテ政府之ヲ解放ス  
ルトナク其權利アル者ヨリ償還ヲ請求シ又ハ義  
務ヲ負擔セシ郷黨或ハ其義務郷黨一般ニ關涉セ  
ヤリシ場合ニ於テハ之ヲ負擔セシ者ノ總員中強

半償還ヲ冀望セシ上協議ヲ以テ該土地ノ時價ニ  
隨ヒ產物ノ價直ヲ積リ其元金ヲ算定シテ義務ア  
ルモノヨリ悉ク之ヲ償還スルノ方法ニシテ若シ  
償還スルヲ冀望セサルハ唯身上ニ屬セシ義  
務ヲ解クノミニシテ土地ニ屬セシ義務ハ従前ノ  
如ク負擔スルモノナリ  
各州政府ヨリ幾分或ハ全ク出スヘキ金額該州ニ  
テ別ニ之ニ供用スヘキモノナキハ賦稅分額ノ  
固數ヲ増課シテ之ヲ出スモノトシ義務アリシ者  
ヨリ納付スヘキ金額ハ二十七年賦ニテ納ケルモ

ノトス而シテ義務アリシ者ノ納付金及ヒ各州政  
府ヨリ出ス所ノ金額ハ渾テ發行証券支消ノ元金  
トス是ヲ為メ別ニ積金社ヲ起シテ各州議院或ハ  
主務ノ官吏其事ヲ執行シ又旧ト權利ヲ有セシ  
モノト義務アリシモノトノ委員一人ツ、常ニ該  
島ニ出張セリ但シ年賦納メノ義務ハ其者ノ身上  
ニ屬セシ義務ニアラスシテ全ク土地ニ負荷セシ  
所ノ義務ナルヲ以テ假令ト事故アリテ政府其土  
地及ヒ其者ノ財産ヲ競賣スルトアリト虽此年  
賦金ヲ先取リニスル特別ノ法アリ

積金社ノ証券ハ渾テ記名ノモノニシテ其種類ニ  
テソ其一ハ自己ノ用ニ供スルヲ得サル物即チ  
郷黨義濟館禮拜堂等ニ為メニ義務セシ物ノ元金  
証券ニシテ利息切手ヲ付スルヲナシ故ニ其利子  
ヲ領受スルニハ無印紙ノ領受證ヲ用テス其二ハ  
五十百五千一萬カレデシ一カレデシハ凡  
錢四十八錢四厘  
ノ六種ニ分チ利息切手ヲ付セシ証券ニシテ此利  
子ハ該社ニ於テ五月一日十一月一日ノ兩度ニ切  
手ト交換ス

右ノ各証券ハ大政府之ヲ保証シテ國債証書同様

位ヲ有セシメタリ故ニ直ニ之ヲ以テ孤兒ノ預  
金義濟館ノ積金官吏身元金ト為ス下ヲ得期滿  
得免アルモルナサナヨシクシテガツシヨシノ取  
扱方詳解附録ニモ亦法律上ニ於テ國債證書ト是モ  
異ナルヲナシ

此証券ハ既ニ償完ヒシ年ヨリ二年ヲ經ルノ後四  
十年ノ間年々四月三十日十月三十一日ノ兩度  
ニ抽籤法ヲ行ヒ總高ノ幾分ツ、ヲ支消ス但シ政  
府ノ都合ニ由リ該期限以内ニ支消スル下ヲ得ハ  
シ而シテ當期ノ抽籤ニ當リシ証券ハ次期ノ抽籤

期日 即チ四月當籤ノ証券ハニ至リ該積金社ニ於テ  
十月ニ至リテ交換ス

其券面高ニ應シ現金ト之ヲ交換ス故ニ此時ヨリ  
其証券ノ利子全ク消滅スルモノナリ

澳國各州ニ於テ發行ヒシ証券ノ總高ハ四億七千

五百拾九萬六千六百四十ケルゲン 凡ソ我ニ億ニ

万五千百七十三ニシテ内大政府ヨリヲウデミウ 十九百九十九

四七十六兆

即チ農民土地相續或ハ讓受ノ際貴族ハノ献金

ヲ償完ヒシ高二千九百五十四萬八千五百四十ケ

ルゲン 凡ソ我ニ四百二十八万一千四百十リ又國債事

幣局千八百六十年十一月一日ノ報告書ニ據ルハ

証券ノ總高紙幣ニシテ四億八千三百十三万二千  
 百四十二クルゲン 凡ソ我ニ億三千三百八十三万  
五十九百五十六四七十二  
八  
 厚ニ至レリ蓋シ証券支消ノ元金及ヒ其利子ハ渾  
 テ紙幣ヲ以テ之ニ供用セシニ由リ相場上ニ於テ  
 斯ノ如ク差異ヲ生シ損失ヲ為セシモノナラン  
 土地羈絆解放ノ方法ハ澳地利全國同一ナリト雖  
 氏証券支消法ノ如キハ各州異同アリ即十七州分  
 テ三トス第一ハ日耳曼斯加拉窩尼亞ノ各州即チ  
 エンス川上澳地利下澳地利波希米摩拉維細勒西  
 亞義士的里亞冕城クライン薩斯堡イストリオン

ゲールツ并ニガラガスカ及ヒ得利益ノ法ナリ此  
 各州ニ於テハ千八百五十六年四月三十日ヨリ始  
 テ証券支消ノ抽籤法ヲ行ヘリ此法他ノ法ニ異ナ  
 ル所ノモノハ証券持主ヨリ償還ノ請求ヲ為シ得  
 ルト但シ償還ノ請願書ハ無印紙ニテ之ヲ其積金  
 社ニ出シ該社ニ於テハ此証券ヲ檢閲シテ渾テノ  
 目錄ヲ製ス尤モ抽籤期限六ヶ月前ニ請願セサル  
 セノハ採録セテハ、下ヲ得ス請求セサル者ノ証  
 券籤ニ中レハ之ニ五分ノ賞金即チ百クルゲン  
 我四十八回ニ付五クルゲン 凡ソ我ニ四回ヲ付シテ  
四十支

償完スルトニ在リ請願セシ者ノ諸券ハ其月日ノ  
 先後ニ拘テス之ヲ抽籤ニ付シ其籤ニ中ラサル公  
 ハ次期ニ移シテ抽籤ニ付ス又諸頭ノ証券高償還  
 高ニリ寡少ナレハ直ニ悉ク之ヲ償完シテ其剩  
 餘ノ高ハ他ノ請願セサルモノニ抽籤セシム而シ  
 テ渾テ中籤ノ標目ニ維也納府ノ新聞及ヒ此事發  
 ニ管涉シタル各州ノ官衙新聞紙ニ附刊シテ之ヲ  
 廣布セリ第二ハ地羅利及ヒフヲラールベルクノ  
 法ナリ此各州ニ於テハ証券持主ノ便宜ニ申リ請  
 求シテ抽籤ニ付スルヲ許サス其他ハ渾テ第一

ノ各州ト異ナルトナシ第三ハ匈牙利國ニ屬セシ  
 各州即チ匈牙利セリビエニバナトト哥羅瓦西垂  
 共ニ斯ハ拉窩尼亞及ヒ七山ノ法ナリ此各州ノ証  
 券ニ二種アリ其一ハ十八百六十七ト云フ名号ナ  
 ル証券ヲ抗敵セシカ多ク一旦其領地ヲ收メテ向  
 シ十八百六十七年ニ大政府之ヲ赦シ復歸セシメタル  
 後ニ於テ製セシ証券ナルヲ以テ此名ヲ付セリ  
 ニシテ十八百六十七年十月三十一日ヨリ始テ抽  
 籤法ヲ行ヒ其一ハ通常ノ証券同上ノ争乱ニ連累  
 セサル貴族其他ノ者ノ為メニ製セシモノニシテ  
 此抽籤ハ十八百五十七年十月三十一日ヨリ始メタ



リ而シテ右証券ノ支消元金ハ大政府ヨリ決シテ  
補充スルヲアルナシ其他ハ渾テ第一各州ノ法ニ  
同シト雖且唯償還ノ請求ヲ許サルノミナリ

普魯士國年貢證券ノ事

普魯士國ニ於テ千八百四十八年迄ハ年貢償還ノ  
事政府專ラ其斡旋ヲサス唯一ニ州内ニ創起  
セル私立ノ償還金庫ヲ保証セシノミナリキ即チ  
同ノデルホル子ルアイクスフヘルトハイッゲン  
ノ各金庫是ナリ然ルニ千八百五十年ノ初メニ至  
リ大ニカヲ用ヒテ全國一般ニ年貢償還ノ事ヲ施

行シ同年三月二日特別ノ法ヲ以テ始メテ年貢銀  
行ヲ萊因州ノ外各州ニ設立セシメタリ即チ伯靈  
北勒斯勞哥厄斯北爾馬得不爾尼、閔士得、波森、斯德  
丁等ナリ是レニ官立ニ非スト虽氏官吏其事務  
ヲ執行シ或ハ州議會之ヲ擔理シテ政府其保證ヲ  
ナセリ  
年貢償還ノ方法ハ左ニ説明スルカ如クニシテ銀  
行ハ土地ノ義務ヲ負荷ナシ者ニ代リ其權利ヲ有  
セシ者ニ對シテ年貢償還ノ事ヲ擔理シ從來義務  
ナル者ヨリ納付セシ年貢高ヲ償直ニ積リ其金額

十分ノ九或ハ全額ヲ償完スルキヲ定メ而シテ  
其高ノ二十倍即チ二百四十ヲ以テ年貢償還元金ト  
シ銀行ニ於テ此證券ヲ造リ年四分ノ利子ヲ付シ  
テ其権利ヲ有セシモノハ償還シ義務アルモノヨ  
リ年賦ニテ之ヲ還納セシム即チ十分ノ九ヲ償  
還セシ元金ハ五十六年一月全額ヲ償還セシ元  
金ハ四十年一月即チ此期限ト定ム而シテ銀行  
ニ於テ十分ノ九ノ元金ヲ受取スルハ百ニ付テ  
五厘全額ノ元金ヲ受取スルハ百ニ付テ一分宛  
テ逐年証券支消ノ元金トセリ

義務アル者ヨリ納ムルキ年賦金ハ法律上ニ於テ  
諸税同様ニ之ヲ徴收シ得ルキ権利ヲ各銀行ハ典  
ハタリ但シ年賦期限中ハ其年貢地ヲ該銀行ハ抵  
當トシ家屋即チ銀行ノ需要ニ随ツ  
テ其保險証ヲ出セリ  
年貢証券ハ十、二十五、五百、千タールニシテ我々  
ノ五種ニシテ之ニ八年分ノ利息扣手ヲ添付シ年  
々四月一日十月一日ノ兩度ニ此金額ヲ拂ヒ八年  
ヲ過ル後ハ其証券所有主ヨリ更ニ請求シテ新利  
息扣手ヲ領取スルヲ得但シ利息扣手ノ金額ハ

銀行ヨリ之ヲ交付シ又政府ノ各金庫ニ於テモ現  
金同様ニ之ヲ領受セリ其他官吏ノ身元金、孤兒ノ  
寄託金及ヒ諸會社ノ元金ニ供用スルヲ得ヘシ  
此年貢証券ハ五月十一月兩度ニ抽籤法ヲ行ヒ  
年總高ノ一分或ハ五厘宛ヲ支消シ而シテ中籤ノ  
証券ハ次ノ利子拂ヒ期日ニ至リテ現金ト交換ス  
故ニ証券ノ利子ハ其交換了リシ日ヨリ全ク消滅  
スルモノナリ

中籤ノ証券ハ現金交換期日ノ四ヶ月前各州ノ官  
衙新聞及ヒ中心政府ノ新聞紙ヲ以テ三回之ヲ公  
告スヘキモノトセリ

銀行ヨリ他ノ貸附セシ金額ヨリ生セシ利子并ニ  
期滿得免ニナリシ證券ノ元金及ヒ其利子ハ銀行  
ノ非常豫備金ニ供セリ

中籤ノ証券ハ十年ヲ以テ期滿得免トシ即チ抽籤ニ  
中リシ年ノ  
十二月ヨリ先キ利息切手ハ四年ヲ以テ期滿得免トス即  
チ  
利息并ヒ年ノ十二  
月ヨリ先キ四年ヲ云フ此証券紛失セシハ裁判所ニ請  
求シテ其通用ヲ停止スルヲ得「是ヲ「アーモル」  
サキヨント云フ」利息切手ノ紛失セシハ確實ノ  
証據ヲ以テ其代リヲ請求スルヲ得ヘシ

紛失ノ証券他人ノ手ニ入リシヲ認知シ得テ之ヲ  
取戻スルノ告訴「是ヲゲインホカツシヨント云テ」ハ國  
債証券同様ニ之ヲ處分セリ

普魯士國古ヨリ在來ノ各州ニ於テハ千八百五十  
九年十月ニ至テ年貢償還ノ事務全ク完了セリ

各銀行ニ於テハ製造セシ証券ノ總高七千八百五十

六万八千三百八十「マイル」凡ソ我五百四十九万九千  
七百八十六四六十五

ニシテ強半之ヲ支消セリ

ホーヘンツラールンノ各州ニ於テハ頃年ニ至  
リ始メテ十分一年貢償還ノ方法ヲ設テ銀行ヲ設

立セリ

### 巴華釐亞國土地年貢償還証券ノ事

巴華釐亞國ニ於テハ千八百四十八年六月四日ノ

法ヲ以テ先ハ貴族及ヒ地頭ニテ有セシ裁判ノ權

ヲ解キ行政ノ權ハ農  
政ニ解キ次ニ農民ノ負荷ヒシ土地ノ

義務ヲ解キ之ヲ為メ年貢ハ其元金高ノ証券ヲ以テ

之ヲ償還シ其他ハ渾ニ償金ヲ要セズニテ之ヲ解放

セリ即チ小作物ノ十分一年貢額產相統ノ賦金及ヒ驛  
役ノ義務等ヲ云フ詳ナルハ巴華釐亞國稅法ヲ參看  
スヘシ其方法左ノ如シ

### 第一節

私領地及ヒ義海館、御黨ノ為メニ尽ス義務ノ如  
キ其償金ヲ要シテ之ヲ解放スヘキモノハ權利  
ヲ有セシ者ノ請求ニ應シ朝鮮金庫ニ於テ其權  
利ヲ讓受テ從來義務アリシ者ヨリ收取セシ年  
貢ヲ價直ニ積リ其金額二十倍ノ証券ヲ製シ年  
四分ノ利子ニ付シテ之ヲ其權利ヲ有セシモノハ  
償還ス而シテ此元金ノ四十八倍ハ義務アリシ  
モノヨリ納メ残り二倍ハ大政府ニテ之ヲ補充  
セリ

### 第二節

此朝鮮金庫ハ國債償還局ニ合設セシモノト雖  
モ其金庫及ヒ會計ハ全ク該局ト區別シテ之ヲ  
取扱ヒ而シテ議院ノ委員其監督ヲ為セリ

### 第三節

義務アリシ者ヨリノ納付金及ヒ大政府ニテ補  
充セシ所ノ金額ハ渾テ發行証券支消ノ元金ト  
シ而シテ義務アリシ者ヨリ一時ニ之ヲ完納シ  
能ハサル者ハ其金額ト利子ヲ年賦ニテ納付ス  
ルモノトス此年賦期限ハ納金ノ高ニ應シテ長  
短アリ即十年貢高十分ノ九ヲ償還セシ元金ハ

四十三年トシ金額ヲ償還セシ元金ハ三十四年ト  
不或ハ其元金ヲ細メスシテ永久唯四分ノ利子ノ  
ミヲ納付スル者アリ然リト虽モ自己ノ便宜ニ由リ  
テハ期限ニ拘ハラスシテ悉ク其元金ヲ完納スル  
トヲ得ルモノナリ而シテ渾ク年賦金及ヒ利子  
法律ニ依リテ從前貴族ノ於テ年貢ヲ徵收セシ  
同様ノ權利ヲ金庫ニ與ヘタリ

第四節

權利ヲ有セシ者ニ於テ其權利ヲ金庫ニ讓與ス  
ルトヲ欲セスシテ義務アル者ヨリ年貢償還シ

請求セシ分ハ金庫ニ於テ其年貢ノ元金高ヨリ自  
的トシ年賦ノ法ニ據リ豫メ期限ヲ定メテ義務  
アル者ヨリ其年期割賦ノ金額ヲ年々細付セシ  
メ即チ年貢高百分ノ二十八ヲ償還セシモノハ  
二十四分ノ十八ヲ償還セシモノハ四十三  
年ヲ此期限ト定ム而シテ期滿完納ノ後ニ於テ  
其元金ヲ金庫ヨリ權利ヲ有セシ者ニ償還スル  
モノトス故ニ此期限中權利ヲ有セシ者ニ於テハ  
唯其元金ノ利子ノミヲ年々義務アル者ヨリ直  
ニ收取スルモノナリ

第五節

金庫ニ於テ年々領収スル所ノ金額ヲ以テ先ツ証  
券ノ利子ヲ併セテ次ニ証券ノ幾分ヲ支消スルモ  
ノトセリ此利子及ヒ支消ノ元金ハ洋一萬圓整アリ  
シ者ヨリ納付スル所ノ金額ニ在リテ之ヲ一時  
完納スルニ年賦ニテ納ムルモ固ヨリ其異別  
アルナシ又第四節ノ如ク義整アル者ヨリ年  
貢償還ヲ請求シテ年々金庫へ納付セシ所ノ金  
額ハ發行証券ヲ其券面ノ價位ニテ買戻ス元金  
ニ供シ義整アルモノニ於テモ其証券ヲ以テ金

第六節

庫へ納ムルナラ得斯ノ如クシテ既ニ支消セシ証  
券ノ利子例之ハ三十年間通用ノ証券ヲ十五年ニシ  
テ支消スルハ餘ノ十五年分ノ利子  
ハ全ク金庫ニ入ルハ悉ク証券支消ノ元金ニ加ヘリ  
証券支消ノ方法ハ抽籤ニ以テ逐年總券高ノ幾  
分ハ支消セリ

第七節

証券ノ種類ハ二十五百五十ナルデニ  
テ我々ノ四種ニ分テ其抵當ハ洋一萬圓整  
アリシ者ヨリ納付スル所ノ年貢ヲ以テ之ヲ充テ

而シテ大政府十分ニ其保證ヲ為セリ

巴華聲亞國年貢償還ノ法他各國ノ法ト其異ナル  
所ノモノハ前項既ニ説明セシカ如クニシテ大政  
府ハ權利ヲ有セシ者ト義務アリシ者トノ間ニ幹  
旋ニ權利ヲ有セシ者ニ對シテハ負債主トナリ義  
務アリシ者ニ對シテハ債主トナレリ故ニ此金庫ハ  
他各國ノ如ク一定ノ年期ナクシテ義務アリシ者  
ノ負債ヲ償還シ了ル迄ハ之ヲ解クアル無シ  
千八百五十六年七月一日ノ法ヲ以テ千八百六十一年  
九月三十日ヨリハ年貢償還ノ請求ヲ許サス

証券ノ總高千八百五十八年十月一日ノ調ヘニハ

一億三百十二万八千七百七十五ルデン 凡ソ我四十

十五百  
十四 十 リ

此証券ハ固ヨリ巴華聲亞國ノ國債証券ナルヲ以テ  
期滿得免ハ モ ル 千 廿 千 三 ニ 「 リ ン ガ カ ツ 千 三 ニ 」 ノ 取  
扱方モ亦法律上ニ於テ他ノ國債証券ト毫モ異ナ  
ルヲナシ



撤遜国土地年貢証券ノ事

撤遜国ニ於テハ千八百三十二年三月七日ノ詔  
ヲ以テ土地年貢銀行ヲ起シ千八百三十四年一  
月一日ニ至リ三名ノ委員ヲシテ其事務ヲ施行  
セシメ千八百五十六年四月一日ヨリハ年貢ヲ  
償還セサルモノトセリ

此銀行ニ於テハ土地ノ義務アリシ者ヨリ従来  
權利ヲ有セシ者へ納メシ所ノ年貢高ヲ元金ニ  
積リ其高ノ幾分ハ現金幾分ハ証券但シ証券ハ  
年三分ト三分一即チ百圓ニ付三圓三厘三ノ利子ヲ付

スヲ以テ之ヲ其權利ヲ有セシ者へ償還シ義務  
 アルモノヨリハ年賦ニテ之ヲ五十五年ニ完納  
 セシム此年賦金ノ高ハ元金ノ四分ニシテ内三  
 分ト三分一ハ權利ヲ有セシ者へ拂フヘキ利子  
 ノ元金トシ残り三分ニヲ以テ証券支消ノ元金  
 トセリ

証券ノ種類ハ千イ印青色 五百口印紫色 百ハ印  
 黄色 五十ニ印桃色 二十五ホ印綠色 十二半一印  
 鼠色  
 ターセル  
 我七十四  
 我六厘余ノ六種ニ分チ  
 年々四月一日十月一日ノ兩度ニ抽籤法ヲ行ハ

連年証券總高ノ一分ノ三分二内元金利子四分  
 ト三分一ノ一ヲ差別キ残宛ヲ支消シ而シテ次ノ  
 リ三分二ノ高ヲ云フ  
 支消期日ニ至テ現金ト之ヲ交換ス千八百五十  
 九年以來ハ銀行ニ於テ此証券ヲ購収スル丁シ  
 得タリ  
 此証券ハ國債証書同様政府之ヲ保証シ而シテ  
 又銀行ノ經費不足ヲ生セシキハ政府之ヲ補充  
 セリ  
 ウインゲカツテヨシハ千八百四十八年六月八  
 日ノ法ニ隨テ之ヲ廢分シ期滿得免及ヒアーモ

ルチサチヨシハ千八百三十二年三月十七日ノ  
法ヲ以テ國債証書同様ノ處分ヲ為セリ

尾敦堡國地頭年貢十分一年貢償還証券  
ノ事

尾敦堡國ニ於テハ地頭年貢十分一年貢償還ノ  
事相對シ以テ執行セサリシ分ハ渾テ千八百四  
十八年四月十四日ノ法及ヒ千八百四十九年六  
月十七日ノ法ニ隨テ之ヲ施行セリ其法ノ大略  
左ノ如シ

### 第一節

地頭年貢十分一年貢ハ四分ノ利子ヲ標準ト  
シテ其元金ヲ積リ之ヲ二十五ヶ年賦ニテ貢  
荷ノ義務アリシ者ヨリ其權利ヲ有セシ者へ  
償還セシムルモノトセリ

### 第二節

年賦金ハ渾テ年貢地ノ持主ヨリ之ヲ償還ス  
ヘキモノニシテ此年賦期限中ハ法律上ニ於  
テ年貢償還ノ為メ尽スヘキ土地ノ義務トセ  
リ

### 第三節

大政府ハ全ク相對ヲ以テ年貢ヲ償還セザリ  
レ者ノ為メニ負荷ノ義務アリレ者ト其權利  
ヲ有セシ者トノ間ニ幹旋シテ別ニ二ノ解絆  
金庫ヲ創設セリ其一ハ地頭年貢償還ノ為メ  
ニレ其二ハ十年一年貢償還ノ為メニス而シ  
テ權利ヲ有セシ者ニ於テ年貢償還ノ元金年  
賦ニテ收取スル<sub>一</sub>ヲ欲セサルキハ該金庫ヨ  
リ其元金高ノ証券ヲ製シ年四分ノ利子ヲ付  
シテ一時ニ之ヲ償完シ義務アリレ者ヨリハ  
年賦ニテ二十五年ヲ限り金庫へ納付セシム

ルモノトセリ  
証券ノ種類ハ百、二百、三百、四百、五百、千、<sub>一</sub>グ  
ル<sub>一</sub>ゲル<sub>一</sub>デ<sub>一</sub>ン<sub>一</sub>ハ<sub>一</sub>ノ六種ニシテ渾テ普通ノ証  
券ナルモノト雖<sub>レ</sub>之ニ其持主ノ名ヲ記ス<sub>一</sub>  
ヲ得ヘシ  
第四節  
此解絆金庫ハ政府管理スルニ由リ固ヨリ官  
吏不正ノ事アリテ之カ為メ生スル所ノ損失  
ハ之ヲ辨給スト雖<sub>レ</sub>他ノ損失ハ決シテ政府  
ヨリ辨償スル<sub>一</sub>アル無ク渾テ金庫ニ關係ア

ル者即チ証券所有主ノ損失トセリ現今此法  
ヲ釐正センカノ不足ノ金額ハ其事故ヲ問ハ  
ス悉ク政府ニテ辨給スヘキ旨ノ法案ヲ政府  
ヨリ議院へ開陳セリ

### 第五節

年貢償還ノ為メ金庫ニ於テ製セシ証券ノ記  
号ヲ五種ニ分テ而シテ償還スルキハ同号ノ  
証券ノミヲ以テセス各種ノ記号ヲ混シテ之  
ヲ付典セリ渾テ証券高百<sup>九</sup>十<sup>四</sup>以  
下ノ端數ハ現金ヲ以テ償還セシナリ

### 第六節

年貢ヲ償還センカメ金庫ニ於テ其義務アリ  
シ者ヨリ領受スル所ノ年賦金ハ渾テ証券支  
消ノ元金トシ年々抽籤法ヲ以テ各種記号ノ  
順ヲ逐ヒ証券總高ノ幾分ツハヲ支消シテ年  
賦期限ヲ終ルキハ必ス全ク支消シ了ルモノ  
トセリ

### 第七節

普通ノ証券ニハ一年ノ利子切手ヲ付シ而  
シテ地頭年貢ヲ償還セン証券ノ利子切手ハ

四月十八日十分一年貢ヲ償完セシ証券ノ利  
子切手ハ一月一日ニ政府ノ渾テノ金庫ニ於  
テ之ヲ交換シ記名証券ノ利子ハ渾テ主人ノ  
領受証ヲ以テ其利子ヲ拂ヘリ

第八節

普通ノ証券及ヒ其利子切手ハ既ニ一般発行  
ノ国債証書ト同様ノ位ヲ有セリ「アーモルチ  
サチヨン」<sup>「</sup>ウインダカツチヨン<sup>」</sup>期満得免ノ事ハ  
千八百五十二年八月十六日ノ法ニ隨テ之ヲ  
處分セリ

